

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援クレシタ			
○保護者評価実施期間	2026年2月2日		～	2026年2月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42名	(回答者数)	25名
○従業者評価実施期間	2026年3月10日		～	2026年3月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月19日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人一人のお子様の成長発達の段階を見極めながら、そのお子様に合わせた支援を行っていること。	個々のお子さんのアセスメントを丁寧に、アセスメントを基に具体的な支援方針を策定しています。一人一人に合わせた個別課題を設定するとともに、小集団プログラムでは個々の発達に合わせた参加の方法を考えながら、「できた!」「たのしい」「もっとやりたい」と感じることができるように支援を行っています。	職員全体で専門性・実践力を高め、より一人一人に寄り添った支援をしていくため、積極的に研修やカンファレンスなどに参加したり、外部機関との情報共有をしていきます。
2	多職種で連携しながら支援を行っていること。	言語聴覚士、公認心理師、相談支援専門員と一緒に療育を行ったりミーティングに参加したりして、それぞれの専門的観点から意見を出していきます。	保護者のニーズを基に相談を受ける機会を設定し、それぞれの専門職の強みを生かしながらお子様だけではなく家族全体を支援していくようにします。
3	幼稚園・保育園・小学校・療育センター・他の児童発達支援事業所などとも連携して、お子様やそのご家族の将来を見通した支援を行っていること。	幼稚園や保育園、療育センター、他の児童発達支援事業所と定期的に連絡を取って現状を把握し、お子様の成長発達を支援しています。また各種制度のことを保護者に丁寧に説明したり、就学についてのサポートをしたり、将来のことを見通して相談を行ったりする等の支援にも力を入れています。	さらに多くの関係機関とも定期的に連携会議を実施し、子どもの支援状況や課題などについて統一した支援方法を考え、支援していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子供達との交流機会が少ないこと	利用者の多くが幼稚園や保育園等に通っているため、当事業所と併用ということになっています。そのため地域の園や子育て支援施設に向き、子ども達同士で交流をするということについての意義がそれほど高くないという要因が考えられます。また、療育時間の関係で、地域の子供達と交流するための時間の確保が難しいのが現状です。	保護者や地域の保育園・幼稚園などの要望も伺いながら、必要に応じて交流方法を検討していきます。
2	保護者同士の交流が少ないこと	土曜日の親子遠足の時に保護者同士が交流する機会がありますが、現在それ以外では実施していません。保護者が集まって話をすると療育室を使うことになってしまい、実際に可能なのは日曜日になってしまうため開催が難しいのが現状です。	土曜日に通所していないお子さんの保護者交流会についてニーズを把握していき、いつ、どのように行うのがよいか開催方法の検討が必要です。
3			